

～男女共同参画であなたもわたしもハッピーに～
ウィズレター

2020年
9月
43号

発行 市川市 総務部 多様性社会推進課
市川市市川 1-24-2 電話 047-322-6700

市川市男女共同参画センター **ウィズ** 

男女共同参画センター（愛称 ウィズ）は、性別にかかわらず対等な立場であらゆる活動に参画し、喜びも責任も分かち合う男女共同参画社会の実現を目指すための拠点施設です。

愛称の“ウィズ”は、男女ともに、老いも若きもともにという意味が込められています。

批判を浴びた「お家で過ごそう」チラシ

コロナ禍にあった今年のゴールデンウィークですが、とある県の地方紙のグループ会社が作成し、配布したチラシに批判が殺到しました。「ステイホーム」が求められる中、大型連休を前に、「充実すごもりライフ」と題されたそのチラシは、家で過ごすことを推奨するための一環で会ったのだと思います。

「今年のGWは家で過ごそう」という言葉の下に、赤色で女性のイラスト、青色で男性のイラストがそれぞれ描かれ、さらに、女性の上には「断捨離して大掃除」「いつもより手の込んだ料理」、男性の上には「映画鑑賞」「ゆっくり読書」と書かれていました。これに対し「性差別で男尊女卑」「男性が趣味を楽しむ間に、女性が家事をこなすという構図



に見えてとても不愉快」など、表現が時代錯誤であるとして、批判が殺到したのです。まもなく、地方紙のサイトでは、不適切な表現を使ったことに対してのお詫びが掲載されるに至りました。

無意識のうちに「らしさ」が刷り込まれていたこと

ほんの数年前までは、同様のチラシやポスター等も、「当たり前」のものとして受け取られ、批判や抗議が寄せられるなど、ありえなかったのではないかと記憶しています。

私たちは子どものことから、あらゆる媒体を通じて、または身近な大人の口から語られることによって、自身の中に無意識のうちに性別役割分担意識が刷り込まれていきました。

男女別の出席番号では、必ず先に男子生徒が呼ばれたこと、名前の「君」付け、「さん」付けなど、性別により呼称が変え変わることで、将来の夢を語るときでさえ、子どもながらに性別のバイアスをかけていたように思います。

そして大人になった今、性別による役割、責任、在り方の枠に周囲をあてはめて、「男のくせに」「女なのだから」という言葉を何気なく使っていないでしょうか。これは無意識のうちに周囲だけではなく自分自身の可能性を制限してしまうことに他なりません。

学ぼう！セクシャルマイノリティ

市川市ではすべての人が多様な生き方を選択し、個人として尊重され、誰もがくらしやすいまちを目指しています。

そこで今号からセクシャルマイノリティ(LGBT等)についての記事を連載します。

「性はグラデーション」と言われるように、社会には、一般的に認識されている男性、女性という2つの性にあてはまらない方がいます。社会的には少数となるそうした人たちのことを「セクシャルマイノリティ」、「LGBT」などといいます。

LGBTの方々はAB型や左利き、4大苗字の佐藤・鈴木・高橋・田中さんと同じくらい、人口の約8～10%いると言われています。LGBTの方々が身近な存在であることがわかりますよね。

LGBTの方々は、周囲からの差別や偏見などにより、生活するうえでの困難に直面することが多く、生きづらさを抱えて暮らしている場合があります。

すべての人が、互いに人権を尊重し、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会を目指し、多様な性のあり方について正しく理解し、LGBTの方々への差別や偏見をなくしましょう。

次号はLGBTに関連した用語解説を予定しています。

